

活動報告

平成19年度 厚生連歯科衛生士会研修活動報告

糸魚川総合病院歯科 歯科衛生士

倉本 文子

平成19年6月17日(日) 厚生連歯科衛生士春季研修会

1:特別講演

講師 新潟大学加齢歯科補綴 助教 北村 絵理子先生

2:会員発表

1) 研修会報告 「日本歯科衛生学会 第1回学術大会」

栃尾郷病院歯科衛生士 渡辺 尚子

糸魚川総合病院歯科衛生士 倉本 文子

1:特別講演 「衛生士のためのリハビリメイク入門」

講師 新潟大学加齢歯科補綴 助教 北村 絵理子先生

<講演内容>リハビリとは、事故や病気で失った機能を元に戻すために訓練をすることであるが、それと同じにリハビリメイクもある。普通のお化粧のメイクとは違い、リハビリメイクとは病気や事故で負った傷跡を少しでもわからなくするメイク方法である。

顔面の事故、骨折、又、口唇裂、口蓋裂による手術後の傷跡をリハビリメイクすることで今まで日常生活に消極的であったり、人前に出ることを気にして外出も出来なかった方に元の姿により近く、傷跡がほとんどわからなくなるリハビリメイクをすることで自信と勇気を与えることが出来る。

歯科衛生士の役割として、患者様の心のケアをすることも大切である。傷跡が気になり、笑顔が消えていた顔にリハビリメイクをすることで久しぶりの笑顔を取り戻せることができる。患者様に喜びを与えることはとても大切だと思う。

2:会員発表

1) 研修会報告 日本衛生士学会 第1回学術大会 基調講演

「高齢社会の健康と QOL を支える歯科衛生士の役割」を聞いて

栃尾郷病院歯科衛生士 渡辺 尚子

歯科衛生士の役割は、国民が望む歯科医療と当然ながら一致する。平成18年では、年間死亡者数は現在100万人だが、平成50年には170万人に達すると見込まれる。高齢社会(多死社会)に対応できる知識と技術と態度の獲得が歯科医師と歯科衛生士に望まれる。私たち歯科衛生士は、高齢者の健康と QOL を考えるために、多くの医療従事者、福祉関係者と連携を取りながら、患者と家族に関わっていかねばならないと思う。

2) 唾液腺マッサージにより口腔乾燥の改善を認めた一例

糸魚川総合病院歯科衛生士 倉本 文子

近年、口腔乾燥症に悩む人が増えている。症状として、「喉がカラカラになって会話が困難」「食事が困難」「常に咳がでる」「舌が痛い」などがある。

口腔乾燥の多くは、唾液の分泌の減少に起因していることから、唾液の分泌の促進を目的とした家庭で手軽にできる唾液腺マッサージを試みた結果、唾液の湿度が高まったという報告を聞いた。口腔湿潤剤だけに頼るのではなく、私たち歯科衛生士は正しい知識をもち、患者様を指導することが患者様の QOL の向上の支援にとっても大事だと思う。

今後の患者指導に実践していきたいと思う。

厚生連歯科衛生士会秋季研修会 平成19年10月28日(日)

1:特別講演 「歯科麻酔って何?」

講師 新潟労災病院 歯科口腔外科 松井 宏先生

2:会員発表

1) 「口腔ケア研修会に参加して」

刈羽総合病院歯科衛生士 保坂 智子

2) 「糖尿病教室での口腔ケア実施報告」

糸魚川総合病院歯科衛生士 倉本 文子

1：特別講演 「歯科麻酔って何？」

講師 新潟労災病院 歯科口腔外科 松井 宏先生

<講演内容> 歯科治療は、歯の切削や外科手術など患者に対し不安感や痛みを与え、精神的に緊張を強いる。麻酔医の仕事は治療に対し強い不安や緊張、恐怖をできるだけなくす事にある。全身麻酔、局所麻酔、笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法など、患者の全身管理をし、その患者にとって一番有効な方法で麻酔をする全身管理のスペシャリストである。

外科手術や埋伏智歯抜歯は、長時間の開口や口角牽引など不快事項が多く、心理的な苦痛が大きい。術中の痛み、苦痛をいかに少なくする事が大切である。歯科衛生士は、治療の質の向上のために、歯科医師と連携をとりながら、正しい知識を持つ事が重要だと思う。

2：会員発表

1) 「口腔ケア研修会に参加して」

刈羽総合病院歯科衛生士 保坂 智子

講演：『多死時代と多歯時代に備えて食べるをいかに守るか？』

講師：日本歯科大学付属病院 口腔介護、リハビリテーションセンター センター長 菊谷 武先生

今、日本は超高齢社会の道のりを進むなか、2015年には65歳以上の高齢者数が3300万人に達すると予測されています。単に寿命が延びるだけでなく健康寿命をのばすことが課題です。私たちも高齢者とのかかわりのなかで、健康教育を行い、介護予防を推進し健康寿命を延ばすための口腔ケアをさまざまな形で推進していくことが大事だと思いました。

2) 「糖尿病教室での口腔ケア実施報告」

糸魚川総合病院歯科衛生士 倉本 文子

歯周病は歯周ポケット内の細菌の増殖による慢性的炎症である。歯周病は歯科疾患の中で唯一生活習慣病である。糖尿病の患者は高率で歯周病を発症している。発症した歯周病が逆に糖尿病の血清コントロールを困難する方向に働く。歯周病はインスリンの効きを悪くする。生活習慣病が激増するなか、歯周病を未然に防ぐために、正しい口腔ケアを身につけプラークコントロールすることが大事だと思う。

(2007/12/03 受付)